

① 「自家採種の農業」とは、どのような農業のことですか？27字内で書きましょう。

② 神崎さんは、野菜が花を咲かせる姿に何を感じるのでしょうか？

[]

③ 神崎さんが、自分の仕事と言っているのは、どこですか？その部分を赤線で囲みましょう。

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／中学～高校生／国語、総合、朝NIE

有機農園「ばいじんじい」

神崎 一馬さん(39) 姫路市

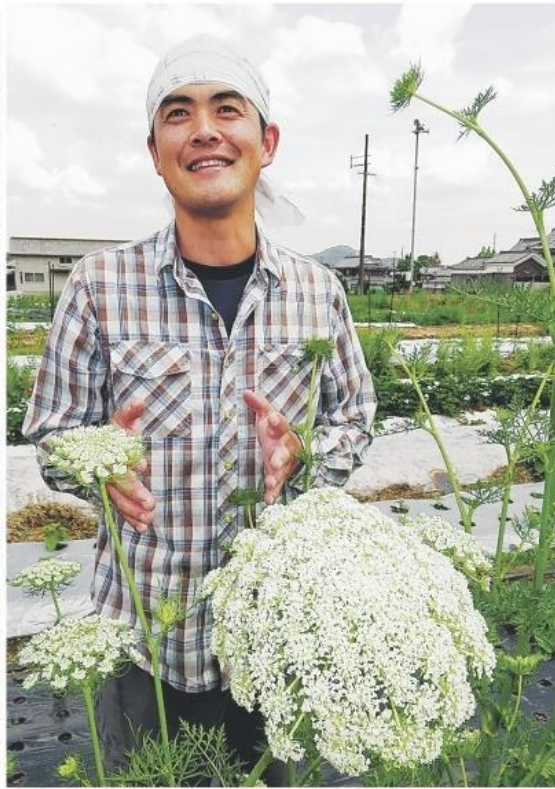
春から初夏、神崎一馬さん(39)＝姫路市＝の50坪の畑はさまざまな野菜の花でにぎわう。カブやハクサイなどアブラナ科は菜の花。シユンギクはもろろん菊の花だ。見ごろのニンジン白い花の横で、3月に咲いたダイコンの株が種をつけた。「かじってみたらやはりダイコンの味」と笑う。

花を咲かせ、実らせた種を採り、翌年にまいて育てる。自家採種の農業を始めたきっかけは、6年前に就農した時、祖父からもらった姫路特産の網干メロンの種だった。育ててみると、店頭で見るとよりも大きな実ができる。「気に入ったのから種を採り、大きくしていった」という祖父の話聞いた時、種の世界が見えてきた。今は地域の高齢農家から譲ってもらった種や全国各地の在来種など約95品種を育てる。

現代農業は種苗会社が販売する交雑品種「F1品種(一代雑種)」が主流。見栄えの良さや収量の多さが売りが、一代限りのため、農家は毎年、種を買うのが当たり前になっている。

一方、自家採種は種が実るま

年間95品種の農産物を栽培する



種採りの醍醐味 次代へ

で待たなければならない。非効率ともいわれるが、野菜が花を咲かせる姿に手間を忘れさせる生命力を感じる。「種を残すことに関わるのは、自然を相手にする農家ならではの醍醐味」神崎さんの同年代には、多様な豊かさを感じて自家採種に

「種は農業の自立・自由の本。どこかの誰かがつないでくれたからこの種がここにある。そのありがたさを感じながら誰かにつなぐ。それが僕の仕事をす」(辻本一好)

日本の縮図といわれる兵庫の多彩な風土と人々の食をつなぐさまざまな「地産地消」の取り組みを、原則、第1、3、5火曜に紹介します。

大学職員などを経て2010年就農。農園名は幼い子どもが話していた言葉から。中播磨の若手農家グループ「HANDS」で、第1水曜にJR姫路駅北の地下通路で直売市を開く。詳しくはHANDSのホームページで。

種採りに残したニンジンの株から咲く白い花と神崎一馬さん＝姫路市香寺町行重

地産地消くらぶ 食のネットワーク ①